

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-88	高等学校	公民	公共	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	公共 007-902	公共 新訂版 共につくる未来		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「公共」が公民科の基礎科目であることに鑑み、生徒が興味をもって学習しながら、基礎的・基本的な事項を無理なく学習できるように、以下の点についてとくに配慮した。

- 1) 重要用語や難解な専門用語については、注を付し、丁寧に解説した。
- 2) 生徒が社会的事象に対して客観的かつ公正な見方や考え方ができるように、各節冒頭に写真や素朴な問い、学習課題を示した。また、情報を適切かつ効果的に読み取る技能を育成できるように、統計資料には読み取りのポイントを「Check」として示した。
- 3) 第1編「公共の扉」では、社会に参画する際の選択・判断の手掛かりとなる概念や理論や、公共的な空間における基本的原理を理解するため、イラストなどの表現を有効に活用して理解の助けとなるようにした。
- 4) 第2編「よりよい社会の形成に参画する私たち」では、各節で学習した知識を活用した具体的な問いを「Check」「Active」として示し、協働的な学習活動を通して思考力・判断力・表現力を育成できるようにした。
- 5) 第3編「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」では、生徒自らが探究する課題を見いだすために、課題の設定や情報の収集・読み取り、考察、表現といった技能を紙面上で追体験できるようにしており、自分の課題として自由な発想で探究活動をおこなえるようにした。
- 6) 第2編で学び習得した知識・技能を、具体的なテーマのもとに総合的に活用し、協同的な考察や話し合いをより進めやすくするために、巻末ワークを用意した。
- 7) 学習内容が実生活・実社会に関連付けられるように、生徒にとって身近で具体的な話題を多く取り上げた。また、時事的な事例もコラム「時事ノート」を中心に積極的に扱った。
- 8) 社会に出てからも活用できるような知識・心構えを、コラム「Navi」で豊富に扱った。
- 9) 日本の文化や伝統については、青年期の分野においてその特色と学ぶことの意義に触れたほか、日本人としての自覚をより深められるよう、日本人の伝統的な自然観や倫理観、外来思想の受容と日本思想の変容などについても記述した。
- 10) 領土問題については国内外の事例を紹介したうえで、日本に関する問題の所在と平和的解決が模索されていることを、地図を交えて詳述した。
- 11) グローバル化が進む現代社会において、日本国内の諸現象のみならず、世界全体の課題について探求できるように配慮した。
- 12) 公民的素質を養うために、全編を通じて生徒の問題意識に訴えかける文章を多用したほか、平和と人権を重視する視点を貫いた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 公共の扉	A 公共の扉		11
第1章 社会を作る私たち	(1)公共的な空間を作る私たち	p. 8～15	2
第2章 人間としてよく生きる	(1)公共的な空間を作る私たち (2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	p. 16～25	3
第3章 他者とともに生きる	(1)公共的な空間を作る私たち (2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	p. 26～33	2
第4章 民主社会の倫理	(2)公共的な空間における人間としての在り方生き方	p. 34～39	2
第5章 民主国家における基本原理	(3)公共的な空間における基本的原理	p. 40～49	2
第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち		
現代の民主政治と日本国憲法		p. 50～99	15
第1章 日本国憲法の基本的性格	ア(ア)法や規範の意義及び役割 (イ)我が国の安全保障と防衛 (エ)必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	p. 52～53 p. 232～233 p. 72～76 各節(とくに p. 66～67)	8
第2章 日本の政治機構と政治参加	ア(ア)司法参加の意義 (イ)政治参加と公正な世論の形成，地方自治 (エ)必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	p. 80～85 p. 234～235 p. 76～79 p. 86～99 p. 236～237 各節(とくに p. 94)	7
現代の経済社会と国民生活		p. 100～165	18
第3章 現代の経済社会	ア(ウ)市場経済の機能と限界，財政及び租税の役割，金融の働き (エ)必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	p. 102～109 p. 120～129 p. 238～243 各節(とくに p. 130～131)	8
第4章 日本経済の特質と国民生活	ア(ア)多様な契約及び消費者の権利と責任 (ウ)職業選択，雇用と労働問題，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	p. 140～145 p. 244～245 p. 152～157 p. 158～165 p. 246～249	10

	(エ) 必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	各節	
国際社会と人類の課題		p. 166～199	8
第5章 国際政治の動向と課題	ア(イ) 国家主権，領土（領海，領空を含む。） 我が国の安全保障と防衛， 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割 (エ) 必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	p. 168～181 p. 172～173 p. 174～181 p. 182～183 p. 250～251 各節	4
第6章 国際経済の動向と課題	ア(イ) 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割 (ウ) 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際関係における貧困や格差の問題を含む。） (エ) 必要な情報を適切かつ効果的に収集し読み取り，まとめる技能	p. 194～197 p. 254～255 p. 186～197 p. 252～253 各節	4
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	p. 202～213	8
		計	60

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-88	高等学校	公民	公共	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	公共 007-902	公共 新訂版 共につくる未来		

1. 編修の基本方針

第2条の目標を達成するため、次の通り編修した。

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文記述をさらに深める補注のほか、最新の話題や動向を扱う各種のコラムを設けた。また、豊かな情操と道徳心を培う観点から、第1編「公共の扉」において人間としての在り方や生き方について思索してきた先哲の思想を詳述し、原典資料を掲載した。（第1号）
- ・創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを助けるため、各節には具体的な検討の観点を「Check」として示した。また、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、キャリア意識や労働トラブルへの対処といった、社会に出てからも役立てることのできる知識を、特集ページや巻末ワークで紹介した。（第2号）
- ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる態度を養う助けとなるように、第1編「公共の扉」においてそれぞれ特集ページを設けた。同様に、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うために、政治参加の重要性や主権者としての考え方を涵養するための特集ページや巻末ワークでの演習を設けた。（第3号）
- ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、地球環境問題や自然との共生についての国際的な取り組みを、SDGsを切り口に掲載した。（第4号）
- ・伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を涵養するため、日本の文化や先哲の言説を紹介した。また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、日本の対外援助や国際交流についての記述を掲載した。（第5号）

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本の世界遺産を取り上げ、我が国の文化と貴重な自然について、理解できるようにした（第5号）。	前見返し 3
第1編 第1章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、青年期における自己形成の過程を記述した（第1号）。 ・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点、さらに主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、職業生活と社会参加について記述した。とくに職業興味やキャリアの感覚をイメージさせるため、多くの図版を掲載した（第2号、第3号）。	p. 8～11 p. 12～13

	・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重する観点から、日本人の伝統的な自然観や宗教観、道徳観の形成、さらに西洋思想の受容と展開について記述した（第5号）。	p. 14～15
第1編 第2章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を養う観点から、さらに正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる観点から、源流思想をはじめさまざまな思想家の言説、三大宗教を記述した。また、とくに愛や正義については、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第1号、第2号、第3号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、人間としての在り方生き方に関わる古今東西の先哲の原点資料を掲載するとともに、それらの資料の主張の要点や、複数の資料の共通点や相違点を読み取る問いを付した（第1号、第2号）。	p. 16～25 p. 20, 21, 22, 25
第1編 第3章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、選択・判断の手掛かりとして、帰結主義の考え方や義務論などの考え方を詳述した。また、これらの考え方を思考実験などを通して活用し、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察・表現する特集ページを設けた（第1号、第3号）。	p. 26～33
第1編 第4章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点や個人の価値を尊重する観点、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う態度を養う観点から、人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務について詳述した。また、公共的な空間における基本的原理について、思考実験を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察する特集ページを設けた（第1号、第3号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、男女共同参画社会を実現するための政策や取り組みを記述した。また、日本の課題やその解決策について、多面的・多角的に考察・構想・議論する特集ページを設けた（第3号）。	p. 34～39 p. 35, 38
第1編 第5章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点や個人の価値を尊重する観点、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う態度を養う観点から、民主政治の成り立ちと発展について、民主主義や法の支配、個人の尊重といった公共的な空間における基本的原理をふまえながら記述した。（第1号、第2号、第3号）。	p. 40～49

第2編 第1章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、大日本帝国憲法を起点として、日本国憲法の成立を取り扱い、我が国に立憲主義が定着していく過程と、日本国憲法の基本原理を記述した（第1号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、表現の自由や平等権・生存権の保障、公共の福祉について、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第1号、第2号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、平和主義の理念とこんにちに至る我が国の歩みを記述した（第5号）。 ・豊かな情操と道徳心を培う観点から、情報化社会における問題点をイラストやコラムで紹介し、生徒の注意を喚起できるように工夫した（第1号）。 ・創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した（第2号）。	p. 54～57 p. 58～69 p. 70～75 p. 66～67 各節
第2編 第2章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、我が国の統治機構について記述した（第1号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる観点や、今後裁判員に選出されたときの参考に資するように、司法の役割や裁判の流れなどを記述した（第1号、第3号）。 ・個人の価値の尊重や自主及び自律の精神を養う観点から、選挙制度と投票行動の意義について扱った。とくに、18歳選挙権を踏まえて、若年層が選挙に参加する意義については、コラムでとくに詳述した（第2号）。 ・創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した（第2号）。	p. 76～89 p. 80～85 p. 90～99 各節
第2編 第3章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、経済活動の意義と経済思想の変遷、金融・財政など、経済理論について十分に記述した。また、とくに財政再建問題については特集ページを設け、現状と課題を深く考察しながら、世代間の公正も踏まえた租税負担について思考できるように工夫した（第1号）。 ・個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、起業に関する具体的なイメージを膨らませることのできるコラムを設けた（第2号）。 ・自主及び自律の精神を養う観点から、需給曲線・供給曲線のシフトやGDPの計算といった理論について、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた。また、取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した。（第2号）。	p. 102～131 p. 114～115 p. 107, 117, 118, 125 など 各節

第2編 第4章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、中小企業・農業、労働、社会保障など、日本経済の特質と国民生活について十分に記述した。また、とくに今後の社会福祉について特集ページを設けており、あるべき福祉と費用負担のバランスを考察・検討できるよう工夫した（第1号）。 ・道徳心を培うとともに、自主及び自律の精神を養う観点から、契約と消費者問題について記述した。また、クレジットカードや悪質商法などについてはコラムを設けた。さらに、悪質商法についてはイラストを交えて具体的な事例を紹介し、実際に巻き込まれてしまったときの解決の手がかりとなるように工夫した（第1号、第2号）。 ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、とくに四大公害以降の公害関係法整備、循環型社会の形成に向けてのあゆみを記述した（第4号）。 ・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、労働問題と労働者の権利について詳述した。また、求人票の見方や職業の意義と職業選択、労働問題、ワーク・ライフ・バランスなどについては特集ページを設け、とくに労働問題は具体的事例を紹介し、実際に巻き込まれてしまったときの解決の手がかりとなるよう工夫した（第2号）。 ・創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した（第2号）。	p. 132～165 p. 140～145 p. 146～147 p. 148～157 各節
第2編 第5章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点、さらに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、国家間の政治における動向を記述した（第1号、第5号）。 ・生命を尊ぶ観点から、人種・民族問題、軍拡・軍縮問題についてはとくに詳述した（第4号）。 ・我が国と郷土を愛する観点から、戦後の日本外交と、PKO、ODA などによる貢献について具体的に記述した。また、我が国の領域についても地図を示して具体的に記述した（第5号）。 ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、国際平和に対してどのような貢献ができるのかを検討するための具体的な問いを設けた（第3号）。 ・創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した（第2号）。	p. 168～185 p. 176～181 p. 182～183 p. 183 各節
第2編 第6章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、グローバル化が進む国際経済の動向について記述した（第1号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、我が国のODA による貢献について記述した（第5号）。	p. 186～197 p. 195

	・ 自主及び自律の精神を養う観点から，比較生産費説や外国為替のしくみ，円高・円安の影響といった理論について，自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた。また，取り扱っている学習内容に即した具体的な問いを各節に設定した（第2号）。 ・ 生命を尊び，自然を大切にし，環境の保全に寄与する態度を養う観点から，地球環境問題や自然との共生についての国際的な取り組みを，SDGs を切り口として掲載した。（第4号）	p. 184, 187 各節 p. 198～199
第3編	・ 創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，正義と責任，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う観点から，現実の諸課題を探究するための具体的な方法論を示し，生徒の学習段階や進度に合わせて協働的な考察・構想ができるように工夫した（第2号，第3号）。	p. 200～213
巻末ワーク	・ 創造性を培い，自主及び自律の精神を養うことを助けるため，第2編における，現実社会の諸課題に関わる事柄や課題に対し，生徒自身がより身近な問題として認識し，各章・節で得た知識を整理したうえで協働的な考察をおこないやすくなるように工夫した。（第2号）	p. 230～256

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・ 学校教育法第五十一条三項（社会について，広く深い理解と健全な批判力を養い，社会の発展に寄与する態度を養うこと）に則して，本文記述や課題例など教科書全体を通じて，生徒が物事を多面的に理解・解釈し検討を重ねていけるよう，とくに配慮した。